

かんちゃん通信

令和元年7月12日(金)発行 文責：林 寛

～幼小交流～

11日(木)は、幼小交流で年長さんが小学校に行き、1年生の生活科の学習に参加してきました。

はじめは緊張していた年長さんもだんだん慣れて、1年生と一緒に楽しく活動する子どもいれば、幼稚園を出るときはニコニコ笑顔で元気いっぱい「行ってきま～す。」と言っていた子どもが、小学校の体育館に入った途端、人見知りをして、会話がなくなる子どももいて、様々な姿を見ることができました。

幼稚園と小学校では、教育目標や教育方法が違います。似ている部分も多くありますが、1年生は、それまでの経験と違った生活が訪れるため、その違いに戸惑う子どもも時々見受けられます。

子どもの育ちは連続していますので、ある日突然、小学生になったからといって生活のリズムや学習の方法を全く変えるのではなく、小学校は幼稚園の生活を意識した生活や学習方法を工夫したり、幼稚園は卒園間近になると小学校の生活や学習を意識した保育を行ったりします。

そうして、少しでも幼稚園と小学校の「段差」を低くしようという意図で行われているのが幼小交流です。

公立の小学校でも、近隣の幼稚園や保育所と連携して、様々な取組を行っているところが多くありますが、附属の場合も、フェンス1つで仕切られた隣接する場所にあるという利点を生かし、年間を通じて何度も交流する計画があります。

今回の交流では、パートナーさんが決まり、これからも同じパートナーさんと活動をしていきます。幼稚園の保育は遊びが中心です。これからも1年生との交流を楽しんでほしいです。

